

水産試験場概要*

1 建物・施設等

総面積 2,616m²

建物敷地面積 2,616m²

建物延面積 1,641m²

本館延面積 399m²

附属施設延面積(7棟) 1,242m²

漁業調査船「きのくに」

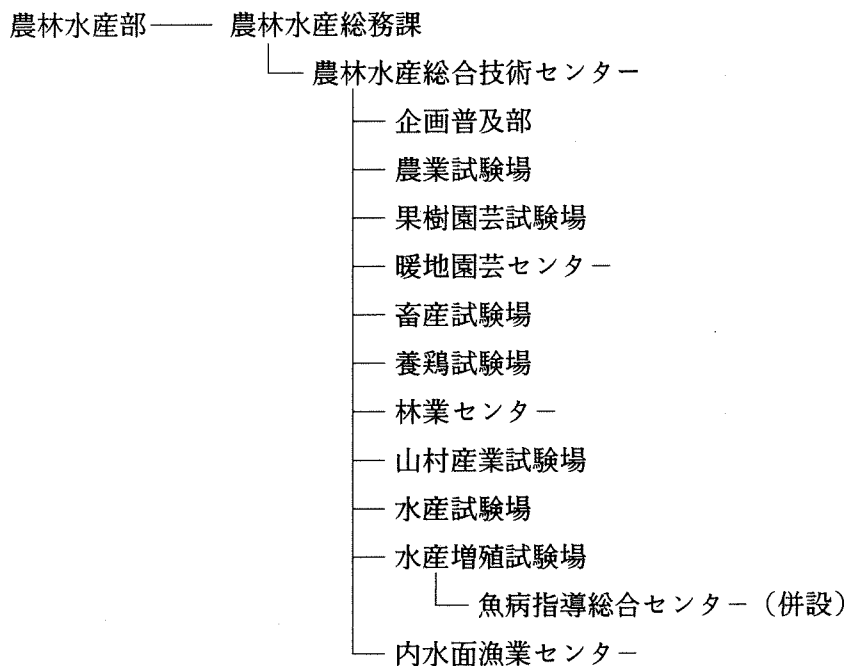
平成8年11月竣工 鋼製98トン、ディーゼル1,200馬力

公害調査船「しお風」

昭和57年3月竣工 FRP製 7.95トン、ディーゼル85馬力

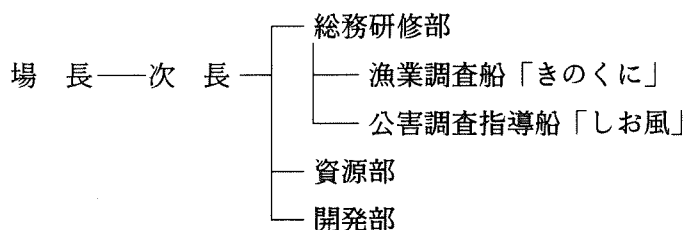
2 機構と組織

1) 機構



(但し水産関係機関の主管課は、当分の間、水産課)

2) 内部組織



※平成11年度 農林水産技術センター年報、水産試験場概要に一部加筆、訂正、削除したものである。

3 職員の構成

区分	行政職	研究職	現業職	計
場長		1		1
次長	1			1
総務研修部	5	1	5	11
資源部		5		55
開発部		5		5
合計	6	12	5	23

4 職員と事務分担

部名	職名	氏名	事務分担
	場長	加来靖弘	場の総合企画および総括 場長の補佐、職員の人事・サービス・予算の総括・公印の管理、 作業員賃金の歳出事務、広報
	次長	北地五男	
総務 研修部	部長	渡辺勇二郎	部の総括・企画調整、漁民研修、委託料・旅費等の歳出事務 歳入歳出事務、文書の収受発送、物品の調達、給与・共済・ 互助会事務、庁舎・公用車の管理
	主査	小林秀司	
	船機長	藤井一人	
	航海長	亀谷弘	
	機関士	小西寛弥	
	船員	岸幸一	
	船員	河田進一	
	船員	住谷勝志	
	現業技能員	堀浩一	
	用務員	海老名要一	
資源部	部長	田中千秋	場の環境美化、その他の雑務
	主任研究員	竹内淳一	部の総括・企画調整、人工衛星画像受信システム、マグロ・ サメ資源調査
	主査研究員	吉村晃一	複合的資源管理型漁業促進対策（タチウオ・ヒラメ）
	研究員	武田保幸	漁海況調査、シラス調査、TAC魚種、漁業生産力モデル調 査（スルメイカ）、イルカ資源調査
	研究員	諏訪剛	海洋観測、卵稚仔・プランクトン調査、カツオ調査
開発部	部長	横浜蔵人	定置・係留計観測、マグロ・サメ資源調査
		堀本信男	部の総括・企画調整、複合的資源管理型漁業促進対策（マダ イ）
		濱地寿生	複合的資源管理型漁業促進対策（イセエビ）、放流資源共同 管理型栽培漁業推進調査（クルマエビ）
		小窪友義	人工礁漁場造成技術・沿整効果調査、複合的資源管理型漁業 促進対策（イサキ）
	山内信	アワビ類資源総合対策調査研究、藻場の変動要因の解明	
	上出貴士	赤潮・貝毒調査、漁場環境（水質、底質）	

5 平成11年度事業予算と財源内訳

(単位千円)

事業名	予算額	財源内訳		
		国庫補助金	国庫委託金	一般財源
水産試験場費	80,796	2,821	28,215	49,760
水産試験場運営	8,056			8,056
漁民研修	369			369
調査船運航	30,514			30,514
漁海況予報	3,756	1,268		2,488
人工衛星画像受信解析システムの運用	3,033			3,033
漁業資源調査	14,134		14,134	
日本周辺高度回遊性魚類調査	1,100		1,100	
イルカ資源管理調査	1,402		1,402	
漁場生産力モデル開発基礎調査	6,579		6,579	
赤潮貝毒監視調査	1,106	553		553
養殖漁場環境保全技術開発試験	1,094			1,094
アワビ類資源総合対策調査研究	4,284	1,000		3,284
人工礁漁場造成事業効果調査委託	5,000		5,000	
沿岸漁場海底地形探査	369			369
水産業進行費	6,210	3,105		3,105
複合的資源管理型漁業促進対策	6,210	3,105		3,105
（広域回遊性資源調査）	4,956	2,478		2,478
（放流資源共同管理事業）	1,254	627		627
漁業構造改善費	1,078			1,078
漁場保全対策推進	150			150
漁場効果調査	928			928
合 計	88,084	5,926	28,215	53,943

6 平成11年度試験研究(調査)結果の概要

1) 漁況海況予報事業(新漁業管理制度推進情報提供、海洋構造変動パターン解析技術開発試験)

資源部(国補) 3,756千円 H9~13

内容: 本県沿岸の海況と漁況に関する基礎資料を定期的に収集し漁海況変動の予測を行うと共に、その情報を迅速に処理して関係者に提供する。また、海洋構造の迅速な把握と変動のパターン化を行うための技術開発試験を行う。

結果: 海洋観測調査(沿岸・浅海定線)を月1回実施すると共に各地の水揚げ量を集計し、それら情報を漁海況速報(週1回、FAX)及び漁海況情報(月1回)として関係機関へ提供した。

また、海洋構造については沖合・沿岸域の水深別流向・流速データの収集を行った。

2) 人工衛星画像受信解析システムの運用

資源部(県単) 3,033千円 H8～

内容：人工衛星画像受信解析システムを運用(保守管理)すると共に、受信した画像を解析し即日情報として迅速に提供する。

結果：画像情報をFAX(人工衛星画像海況速報、1999.1～12; No.1～166)又はパソコン通信(カラー画像)により関係先へ提供した。FAXボックスと黒潮ネット(インターネット)によって一般への情報公開を行った。

3) 漁業資源調査(我が国周辺漁業資源調査、水産生物生態調査)

資源部(国委) 13,442千円 S52～

内容：我が国200海里内漁業資源の合理的な利用を図るための基礎資料を収集すると共にその資源評価を行う。また、日本近海へ来遊するマグロ類の生態調査を行う(勝浦魚市場)。

結果：アジ、サバ、イワシ等について、漁獲状況調査、生物情報収集調査、標本船調査等により基礎データを収集し、それに基づく資源評価を行った。また、マグロ類については、体重測定資料の収集・漁況概況の聴取を行った。

4) 日本周辺高度回遊性魚類対策調査

資源部(国委) 1,100千円 H9～13

内容：高度回遊性魚類資源の科学的データを完備するため、マグロ类等漁獲実態調査を実施する。(勝浦魚市場他)。

結果：漁獲状況調査(マグロ類・サメ類)及び生物測定調査(クロマグロ)を行い、データを収集した。

5) 漁場生産力モデル開発基礎調査

資源部(国委) 6,579千円 H8～12

内容：選定海域における漁場の生産力とその構造の把握並びにモデル化を行うための調査をスルメイカをキー種として実施する。

結果：潮岬周辺の夏季スルメイカ昼釣漁場をモデルとして、漁場調査(水温、塩分、栄養塩等)、餌料生物調査(動物プランクトン)、生物測定調査(スルメイカ)等を行い、基礎データを収集した。

6) イルカ資源管理調査

資源部(国委) 1,402千円 H10～14

内容：イルカ類資源に関する基礎資料を収集するため、現地市場調査を行う(勝浦漁協)。

結果：イルカ突きん棒漁業等により漁獲されたイルカ類について、水揚げ状況(種類、数量、重量

等)及び生物調査(種類、性別、体長等)を行った。

7) 資源管理型漁業技術開発試験(藻場の変動要因の解明に関する研究)

開発部(国補)1,476千円 終了 H7~11

内容:磯根漁場の基礎生産を担う藻場の変動要因を解明し、資源管理型漁業の推進を図る。

結果:カジメとクロメ群落の追跡調査を継続して実施。群落の大規模な衰退現象を確認し、その後の回復過程を把握した。

8) 人工礁漁場造成事業効果調査委託事業

開発部(国委)5,000千円 H6~12

内容:効率的な漁場造成を行うため、タイプ別の魚礁効果を明らかにする。今年度はタイプ別の蛸集魚組成を把握する。

結果:印南沖の人工礁海域において、各魚礁タイプ別に水中テレビ(ROV)による魚類の蛸集状況(魚種、大きさ、数量)を4回調査した。この調査と平行して一本釣による試験操業、水温・塩分の観測も実施した。

9) 沿岸漁場海底地形探査

開発部(県単)369千円 H9~

内容:海底地形図等の漁場情報を提供することによって漁業の活性化を図る。

結果:調査船「きのくに」に搭載された海底地形探査装置を用いて、熊野灘周辺魚礁の詳細な魚礁配置等を調査した。

10) 養殖漁場環境保全技術開発試験

開発部(県単)1,094千円 S60~

内容:主要養殖漁場の環境の実態を把握し、水域環境の改善及び保全技術の開発を図る。

結果:和歌浦湾、湯浅湾と宇久井周辺水域において春、夏、秋、冬季に環境調査を実施した。

11) 赤潮貝毒監視調査事業

開発部(国補)1,106千円 S52~

内容:赤潮予察手法の解明を図り、二枚貝の毒化を監視するとともに、県下各海域に発生する赤潮を調査し、各漁協に情報伝達する。

結果:赤潮の発生件数:8件の発生で昨年(8件)並みであった。1月にはGymnodinium sanqui-neumの赤潮が浦神であった。10月には田辺湾でProrocentrum triestinumが赤潮になったが、長期化しなかった。

貝毒発生状況:麻痺性貝毒については、串本浅海で中腸腺毒力で3.5MU/g(可食部換算:0.2MU/g)、浦神で3.9MU/g(0.2MU/g)がそれぞれ最高値であった。いずれも規制値を超えなかった。下痢性貝毒については検出されなかった。

12) 漁場保全対策推進事業

開発部（国補）150千円 H7～11

内容：串本浅海漁場及び田辺湾の水質環境の把握並びに保全技術の開発を図る。

結果：串本浅海漁場及び田辺湾で毎月1回プランクトンと水質調査を実施し、串本浅海漁場では4月と11月、田辺湾では4月と10月にベントスと底質調査を実施した。

13) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業

開発部（国補）1,254千円 H8～12

内容：クルマエビの漁獲実態、分布・移動実態並びに放流効果を把握する。

結果：クルマエビの漁獲実態並びに分布・移動実態を把握するため、利用実態把握調査、標識放流調査等を実施した。6～9月に漁獲のピークがみられ、小型群は夏季、大型群は春～夏季に多く漁獲されている。平成11年9月30日、1,000尾（BL7～10cm）に白色のリボンタグ標識を装着して毛見地先に放流した。放流一週間後に、和歌浦湾を主漁場とする塩津漁協所属の小型底曳網漁業者が再捕したとの報告があった。

14) 漁場効果調査

開発部（県単）1,031千円 S55～

内容：沿整事業で造成した人工礁漁場の経済効果を把握することにより、より効果的な漁場造成技術の改善に資する。

結果：沿整事業で造成した日高南部、日高・西牟婁、西牟婁中部地区人工礁での効果の検証を目的に、利用船調査を実施した結果、各人工礁で、漁業者の利用状況を把握した。

15) 複合的資源管理型漁業促進対策事業

4,956千円（国補）開発部：マダイ 758千円、イセエビ 1,223千円、サキ 1,690千円、

資源部：ヒラメ 1,043千円、タチウオ 242千円

内容：

（マダイ）マダイ資源並びに放流・資源管理効果のモニタリング調査を実施する。

（イセエビ）各地先における漁業実態並びに移動・成長を明らかにするため、漁業実態調査、標識放流調査等を実施する。

（イサキ）イサキ資源の現状を明らかにするため、漁業実態調査、生態調査等を実施する。また、遊漁者による釣獲量の把握を行う。

（ヒラメ）資源状況の把握並びに資源管理効果のモニタリング調査を実施する。

（タチウオ）資源状況の把握並びに改良網による資源管理効果調査を実施する。

結果：

（マダイ）加太地区の一本釣では1～3歳の未成魚が多く釣獲され、雑賀崎地区の小型底びき網では0歳魚が最も多く漁獲されている。市場における放流魚（当歳魚）の混獲率は、平成8年6.75%、平成9年3.19%、平成10年1.51%、平成11年0.60%である。

再放流尾数は平成8年22万尾、平成9年23万尾、平成10年10万尾、平成11年13万尾と推定された。しかしながら、この中には多くの投棄魚が含まれている。

(イセエビ) イセエビの漁獲実態を明らかにするため熊野灘の3漁協において、漁獲物調査等を実施している。また、移動・生長等を明らかにするため標識放流を実施した。

(イサキ) 田辺漁協を中心に、御坊～すさみの間で一本釣りにより多く漁獲されているのが明らかになった。多獲されている尾又長モードは20～24cmで、調査個体数(53,503尾)の66.7%を占めている。また、一本釣りを中心に漁獲対象になっているのは、おおむね尾又長17cm以上のものである。今後、年齢別漁獲尾数を解明する必要がある。

(ヒラメ) 資源管理効果のモニタリング調査で生物生態調査、漁獲実態調査、標本船調査等を実施した。

(タチウオ) タチウオ改良網の試験操業と効果判定及び漁業実態調査を行った。

16) アワビ類資源総合対策調査研究事業

開発部(県単) 2808千円 H11～

内容: 漁獲量の減少が著しいアワビ類について、それぞれの地先に応じた総合的な資源対策の手法の確立を図る。漁業実態調査、放流手法の開発、放流効果の把握、漁業者検討会等を実施する。

結果: 漁業実態調査: 加太、比井崎、須江、下田原の各市場で漁獲物の測定を行った。加太ではマダカ、クロ、メガイが漁獲され、クロが中心であった。比井崎では、漁獲量が著しく減少しており、一日の漁獲個数は100個に満たないこと等が明らかになった。須江ではトコブシの測定を行い、漁場により殻長組成が著しく異なることが明らかとなった。下田原管理区での漁獲物を調査したところ、標識アワビが14個発見された。また、各地先において漁場環境を潜水により把握した。

放流手法の開発: 加太、比井崎、須江、下田原における放流貝の混獲率調査を行った。加太ではメガイが90%前後、比井崎ではクロが10%以下、下田原ではクロが10%前後、メガイが40%前後、須江は場所による違いが激しく、高い所で50%(トコブシ)であった。

漁業者検討会: 各地先漁協で本事業に係る計画と結果の検討を行った。

7 一般業務概要

1) 平成11年度主要行事及び特記事項(平成11年4月～平成12年3月)

「きのくに」は平成11年、8月「水産祭り」において小学生の体験航海を、2月に京都大学防災研究所の依頼により、海底距離計設置、回収のための航海を実施した。

2) 平成11年度刊行物一覧(平成11年4月～平成12年3月)

平成10年度 海域特性による赤潮被害防止技術開発試験報告書

平成10年度 複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書

平成10年度 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書

平成9年度 和歌山県水産試験場事業報告書

平成9年度 漁海況予報事業報告書

漁海況速報（週刊）

和歌山県漁海況情報（月刊）

沖合黒潮調査速報（黒潮横断観測実施ごと発行、1999-N o. 2～8）

人工衛星画像海況速報（1999-N o. 44～166）

水試だより（奇数月に発行）

3) 平成11年度主要な技術研修及び講演等実績

月	内 容	場 所	対 象
4	平成11年度漁海況予報について モジャコ漁に関する漁海況報告 紀伊半島周辺の海況について	那智勝浦町 勝浦漁協会 議室 串本町 水産試験場 研修室 串本町 水産試験場 研修室	平成11年産ぶり養殖種苗に関する受給調整協議会出席者 モジャコ採捕漁業者・養殖業者 平成11年産ぶり養殖種苗に関する受給調整協議会出席者 モジャコ採捕漁業者・養殖業者 和歌山海区漁業調整委員会 （第16期第19回）委員研修 和歌山海区漁業調整委員
5			
6	シーサイドウォッチング	串本町 潮岬青年の家	小中学生並びに保護者
7	紀伊半島沖の平成11年春季ひき縄カツオ漁について	東京都	第1回カツオ資源を守る全国会議 出席者 太平洋沿岸の各県漁業者 （資料提出）
8	和歌山県人工衛星画像受信解析システムとその活用について	東京都	平成11年度衛星リモートセンシング 推進委員会水産ワーキンググループ 会議出席者
9			
10	1999年春季ひき縄カツオ漁について －春季の大不漁と秋季の小型カツオ好漁－ 紀伊水道外域におけるマアジの増加過程	串本町 水産試験場 仙台市	水産試験場職員 職場研修 平成11年度日本水産学会秋季大会
11	和歌山県沿岸におけるカジメ類の衰退機構 1999年春季ひき縄カツオ漁の特徴について －春季大不漁と秋季の小型カツオ好漁－ T A C魚種資源について	広島市 那智勝浦町 県栽培セン ター会議室	平成11年度瀬戸内海ブロック藻類研 究会出席者 平成11年度東牟婁郡青年協議会学習 会出席者 平成11年度第1回和歌山県の海洋生 物の保存及び管理に関する検討会出 席者
12	田辺湾南部におけるGymnodinium-miki motoの増殖と海水交換の関係	広島市	平成11年度漁場環境保全研究推進全 国会議赤潮貝毒部会出席者

月	内 容	場 所	対 象
1			
2	和歌山県の衛星画像情報の利用について 複合的資源管理型漁業促進対策事業 (マダイ、ヒラメ、タチウオ、ハモ) 説明 会 和歌山県の漁業概観とタチウオの資源管理	長崎市 和歌山市 御坊市 和歌山工業 高等専門学校	東シナ海における衛星リモートセン シングの利用シンポジウム出席者 平成11年度和歌山県資源管理型漁業 (瀬戸内海地域) 漁業者検討会出席 者 学生、教職員、一般
3	複合的資源管理型漁業促進対策事業 (マダイ、ヒラメ、タチウオ、ハモ、イサ キ、イセエビ) 説明会	和歌山市	平成11年度和歌山県資源管理型漁業 推進協議会出席者

4) 平成11年度研究成果の発表・公表

(1) 学会発表・学会誌等への投稿

題 名	発表者	発 表 誌
1997年本州中部太平洋沿岸に発生した Ceratium furcaの赤潮(短報)	町 田 益 己 藤 富 正 毅 長谷川 健 一 工 藤 孝 浩 甲 斐 正 信 小 林 智 彦 上 出 貴 士	日本水産学会誌

(2) 農林水産省研究会等資料

題 名	発表者	発 表 誌
平成11年度漁場保全対策推進事業 (南西ブロック) 担当者会議	上 出 貴 士	同会議資料
第24回東海ブロック水質担当者会議	上 出 貴 士	同会議資料
平成11年度漁場環境保全研究推進会議 赤潮・貝毒部会	上 出 貴 士	同会議資料
平成11年度赤潮貝毒西日本ブロック会議	上 出 貴 士	同会議資料
田辺湾南部におけるGymnodinium mikimotoの増殖と海水交換の関係	上 出 貴 士	同会議議事要録
和歌山県沿岸におけるカジメ類の衰退機 構	山 内 信	瀬戸内海ブロック藻類研究会誌2号 瀬戸内海ブロック介類情報 第38号
平成11年度介類関係試験研究結果	山 内 信	同会議資料
平成11年度藻場の変動要因の解明に関す る研究中間報告会	山 内 信	同会議資料

題 名	発表者	発 表 誌
平成11年度藻場の変動要因の解明に関する研究年度末報告会	山 内 信	同会議資料
平成11年度県栽培漁業推進協議会	堀 本 信 男 山 内 信	同会議資料
平成11年度県資源管理型漁業推進協議会	堀 本 信 男 吉 村 晃 一 浜 地 寿 生 小久保 友 義	同会議資料
平成11年度県複合的資源管理型漁業促進対策事業 (瀬戸内海地域) 漁業者検討会 (太平洋地域) 漁業者検討会	堀 本 信 男 吉 村 晃 一 浜 地 寿 生 小久保 友 義	同会議資料
平成11年度沿整事業直轄調査報告会	小久保 友 義	同会議資料
「人工魚礁漁場造成計画指針(ブルーブック)」の改定にかかる編集委員会	小久保 友 義	同会議資料
平成11年度放流資源共同管理型栽培漁業推進協議会 東ブロック第1回作業部会	浜 地 寿 生	同会議資料
平成11年度放流資源共同管理型栽培漁業推進協議会 東ブロック第2回作業部会	浜 地 寿 生	同会議資料
平成11年度放流資源共同管理型栽培漁業推進協議会 第1回調査部会	浜 田 寿 生	同会議資料
平成11年度放流資源共同管理型栽培漁業推進協議会 第2回調査部会	浜 田 寿 生	同会議資料
平成11年度浅海定線調査等担当者会議 第1回瀬戸内海ブロック生物環境研究会	諏 訪 剛	同会議資料
第30回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議	吉 村 晃 一 武 田 保 幸	同会議資料
最近のモジャコ不漁原因について	竹 内 淳 一	平成11年度中央ブロック資源海洋研究会 同会議資料
1999年春季と秋季のひき縄カツオ漁の特徴について-春季の大不漁と秋季の小型カツオ好漁-	竹 内 淳 一 諏 訪 剛	平成11年度関東・東海ブロック水産海洋連絡会 同会議資料
和歌山県のモジャコ不漁とエルニーニョ現象	竹 内 淳 一	第29回南海・瀬戸内海洋調査技術連絡会 同会議資料
平成11年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会	武 田 保 幸	平成11年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会研究報告No.19,144-152
和歌山県の人工衛星画像受信解析システムとその活用について	竹 内 淳 一	平成11年度衛星リモートセンシング推進委員会水産ワーキンググループ会議

題 名	発表者	発 表 誌
1999年のモジャコ不漁について	竹 内 淳 一	中央水産研究会推進黨議成果集
平成10年度イルカ資源管理調査検討会	竹 内 淳 一 武 田 保 幸	平成10年度イルカ資源管理調査報告書
平成11年度日本周辺高度回遊性魚類資源 対策調査年度末検討会	竹 内 淳 一	平成11年度日本周辺高度回遊性魚類資源 対策調査委託事業報告書（水産庁）
平成11年春季の紀南沿岸域のカッコ漁況 と海況	竹 内 淳 一 諏 訪 剛	平成11年度北西太平洋長期漁海況予報 會議報告（遠洋水産研究所）
平成11年度カッコ漁況海況會議	竹 内 淳 一 諏 訪 剛	平成11年度カッコ資源會議報告 （遠洋水産研究所）
平成10年度遠洋漁業関係試験研究推進黨 議まぐろ資源部会 ビンナガ分科会	竹 内 淳 一 横 濱 蔵 人	平成11年度遠洋漁業関係試験研究推進黨 會議マグロ資源部会ビンナガ分科会報 告書
平成11年度第1回太平洋イワシ・サバ長 期漁海況予報會議	竹 内 淳 一 武 田 保 幸 諏 訪 剛	同會議資料
平成11年度第2回太平洋イワシ・サバ長 期漁海況予報會議	武 田 保 幸 諏 訪 剛	同會議資料
平成11年度第3回太平洋イワシ・サバ長 期漁海況予報會議（FAX會議）	諏 訪 剛 武 田 保 幸	同會議資料
平成11年度海洋變動パターン解析技術開 發事業第1回海域検討会	諏 訪 剛 竹 内 淳 一	同會議資料
最近年における和歌山県沿岸でのタチウ オ漁の動向	吉 村 晃 一	平成11年度瀬戸内海ブロック魚類研究 會報告
平成11年度海洋變動パターン解析技術開 發事業第2回海域検討会	諏 訪 剛	同會議資料
平成11年度イルカ資源管理調査検討会	武 田 保 幸 竹 内 淳 一	平成11年度イルカ資源管理調査報告書
平成11年度漁場生産力モデル開發基礎調 査委託事業結果報告會	武 田 保 幸	平成11年度漁場生産力モデル開發基礎 調査委託事業結果報告書

(3) 新聞掲載等

記事見出し(内容)	掲載年月日	掲載誌名
カツオ漁獲量3分り1に激減	H. 11. 8. 4	サンケイ新聞
戻りカツオ水揚げ活気	H. 11. 9. 11	読賣新聞
カツオ漁異変 原因不明の長期大漁	H. 11. 10. 1	伊勢新聞
戻りカツオ異変? 豊漁2か月	H. 11. 11. 10	読賣新聞
「さっぱりサンマ」さっぱり	H. 11. 12. 16	朝日新聞
熊野灘が何か変だー30年来初の珍事ー	H. 12. 1. 21	伊勢新聞
初カツオ大豊漁 ピチピチ港に春	H. 12. 1. 21	読賣新聞
海況情報	毎 週 1 回	週間南紀ウイークリー
西さんの釣り情報	毎 週 金 曜 日	毎日新聞
「こちら海です」 毎日：串本・田辺・勝浦・加太の 定地水温 随時：衛星画像速報による海況の 解説を引用	毎 日	和歌山放送
釣り情報 毎日：串本・田辺の定地水温	毎 週 木 曜 日	NHK